

自己評価の取り組み

学校法人貢川進徳幼稚園

I 自己評価の取り組み

25年度の学校評価における自己評価について、園の先生に5段階評価と記述で記入してもらい、その結果を集計しました。

今回の自己評価の大項目は、下記の通りです。

- ① 保育の計画性
- ② 保育の在り方、幼児への対応
- ③ 教師としての資質や能力・良識・適正
- ④ 保護者への対応
- ⑤ 地域の自然や社会とのかかわり
- ⑥ 研修と研究
- ⑦ 年度末外部アンケートの検証と全体を通しての保育の振り返り

各大項目について、それぞれの内容に合わせた評価項目を設け、十分～不十分の5段階評価にして自分の保育を振り返りました。

5段階評価	:	十分	5点
		どちらかというと十分	4点
		普通	3点
		どちらかという和不十分	2点
		不十分	1点

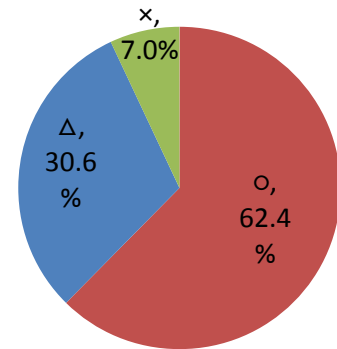
また、評価をした際の気づきや改善課題をまとめて、今後の自分の保育に活かせるようにしました。

Ⅱ 25年度自己評価の結果について

①「保育の計画性」について

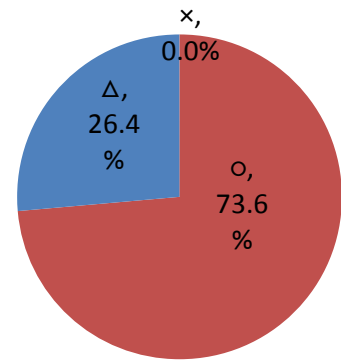
5段階評価による回答結果

その年ごとに子どもたちの個性や姿に合わせ、計画を立てていきたい。環境構成についても、低年齢クラスでは特に安全に配慮する等、幼児の目線に合わせ工夫していきたい。
また、計画の検討は出来ているが、日々の反省や評価をし自分の保育を振り返る時間が少ないという回答が多かった。互いの保育を見合ったり、意見を交換し合ったりすることで次の保育につなげることが課題となる。



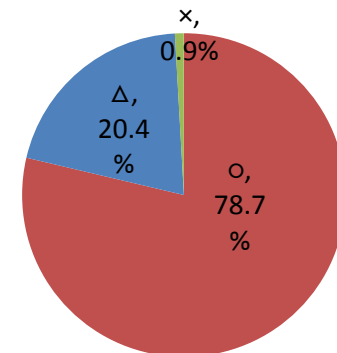
②「保育の在り方、幼児への対応」について

すべての幼児に平等に配慮し、適切な対応で接することが出来たかについては、気に留め再確認する意見が多かった。自らが余裕を持ち、子どものサインを見逃さないよう心がけたり、いろいろな可能性を考えながら子どもと接していきたい。
また、学年を越えての情報共有が少なく、異年齢同士の意図的な活動を取り入れ工夫したいとの声もあった。



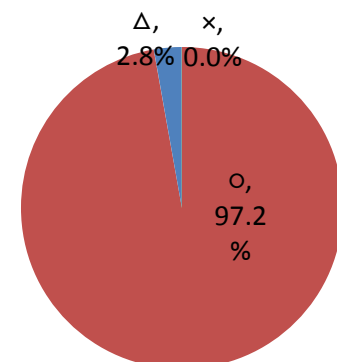
③「教師としての資質や能力・良識・適正」について

10年以上の経験がある教諭は、保育に楽しみや喜びを感じながら、更に社会情勢にも目を向け向上心を持って日々の保育に取り組んだり、感性を養っていくことを課題としている。経験の浅い教諭の中では、言葉遣いやマナー、 \times 切を守ること等、日常生活の中で気を付ける点が課題としてあげられた。
また、教諭全員の仕事に対する意識統一も改善点として考えられる。



④「保護者への対応」について

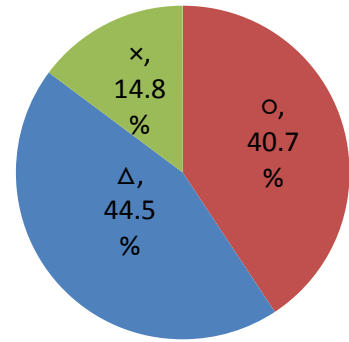
日々意識して対応し、より信頼関係を深めていけるよう努力している。全項目の中での評価も、最も高得点となった。ミニノートや懇談の機会等を使い常に連携を取り、子どもの成長を家庭と一緒に支えられるよう、今後も心がけたい。
顔を合わせる機会の少ないバス通園の保護者の対応や、保護者からの要望に対しての返答等を課題にあげる声もあった。



⑤「地域の自然や社会とのかかわり」について

近くの公園等を利用し自然観察等は季節ごと計画しているが、地域との関わりについては少なく、具体的な形や内容を考える必要性を感じている。

年長児は地域の小学校との交流や施設訪問があるが、それ以外の学年は地域社会に触れる機会が少ない。



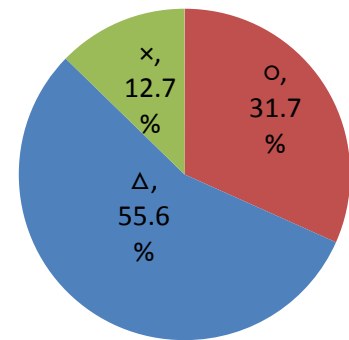
⑥「研修と研究」について

研修や研究については参加する機会が少なく、自己課題を持って意識していく姿勢が必要と感じる。

教職員同士での様々な話題の中から研究につなげていけたらという意見もあった。

また、園内の遊具や教材等の環境についても見直し、対応出来るようにしたい。

新任教諭からは、自分の意見を少しでも言っていけるようになりたいという課題もあげられた。



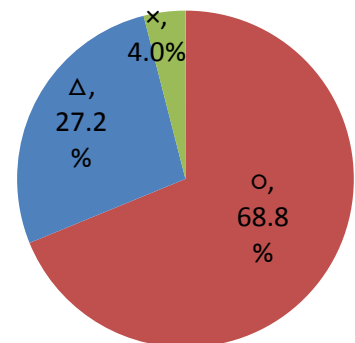
⑦年度末外部アンケートからの検証結果を含め、全体を通しての保育の振り返り・まとめ

子どもの成長を保護者と共に感じる事が出来た。

日々の保育は充実しているが、それを振り返り反省・見直し・研究の時間が思うようにとれていない。

様々な面で改めて見直していきたい所、引き続き実践していきたい所が見えてきた。

子どもの成長に合わせて、一人ひとりに応じた目標や対応を考え、今後の保育につなげていきたい。



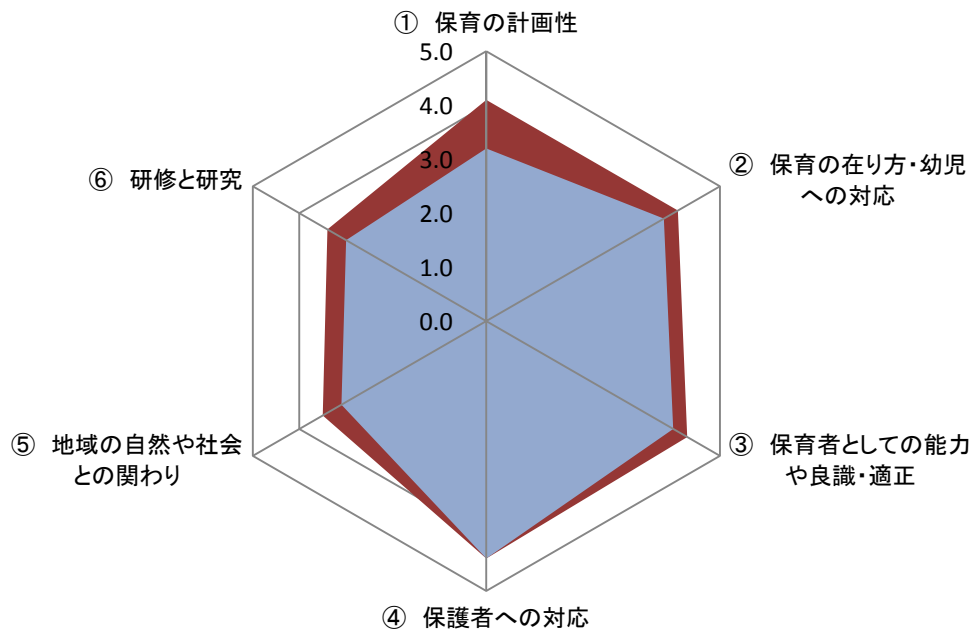
○ → 十分、どちらかという十分

△ → 普通

× → 不十分、どちらかという不十分

Ⅲ 自己評価分析表（各項目別 平均点）

カテゴリー名	平均点（5点満点中）	
	<経験年数10年以上>	<経験年数10年未満>
① 保育の計画性	4.1	3.2
② 保育の在り方・幼児への対応	4.1	3.8
③ 保育者としての能力や良識・適正	4.3	4.0
④ 保護者への対応	4.4	4.4
⑤ 地域の自然や社会との関わり	3.5	3.1
⑥ 研修と研究	3.4	3.0
総 合	4.1	3.7



■ 経験年数10年以上 ■ 経験年数10年未満

IV 検証結果と改善策、まとめ

7つの大項目の中に58の細項目をつくり、それぞれが自身の保育を振り返って評価することで、1年間の保育内容をいろいろな視点から再確認することが出来たと思う。

項目の中では、「保護者への対応」についてが経験年数を問わず最も得点が高く、5段階評価をつけた内容項目の97.2%に”十分、どちらかという十分”の回答が得られた。逆に、”普通”の評価の回答が”十分、どちらかという十分”を上回った項目は、「地域の自然や社会との関わり」と「研修と研究」についてで、改善の必要性を感じる。どちらも参加する機会が少なかったり、自己意識が足りなかったりという点が反省としてあげられた。

また、「保育の在り方、幼児への対応」や「保護者への対応」については、”不十分、どちらかという不十分”という回答は0%で、日頃から気に留め努力する姿がうかがえたように思う。

5段階評価では、達成度を得点にして集計した結果、全体の平均が5点満点中3.9点で、”どちらかという十分”という評価に近い結果ではあったが、一つ一つの評価内容項目をもう一度見直し、それぞれ課題となる点を改善する努力を心がけたい。

年度末のアンケートからは、各クラス保護者との信頼関係が築けたことが実感出来た。園の教育方針の統一や子どもの怪我についての配慮では指摘の意見もあり、様々な要望も含め園内で話し合いの場をもって検討し、可能なこと・不可能なこと等示した上で誠実に対応していきたい。

今回の自己評価を踏まえて、自己の指導の在り方や園全体での意識統一等を振り返る良い機会とし、さらに研究を進めたり、意識しながら日々の保育にあたれると良いと思う。

子どもたち・保護者・教師同士が一体となって、子どもの育ちや幸せにつながる充実した園生活を送れるよう、今後も努力を続けていきたい。